

## 英国大使館にて、《日英感染対策シンポジウム》が開催された

先日、「日英感染対策シンポジウム」が開催され、弊社が長年に渡り英国の商品を日本に紹介している商社として、このイベントへの参加となりました。日英の感染対策、英国耐性菌対策ならびに国内の院内感染対策などが主なテーマ内容で、英国の感染症専門家、厚生労働省、国立感染症研究所、国際医療研究センター、英国感染対策関連企業担当による講演が行われました。さらに、この分野で活躍される多数の参加者により大いに盛り上がりました。



一般的に病院内で起こる感染を院内感染と呼びますが、病院や医療機関は病気を治療する場であると同時に様々な病原体に感染した患者が集まる場でもあります。

又、病院内では外科手術を受けた患者、重症の消耗性疾患の患者、免疫抑制剤投与を受けている患者等もおり、体力・免疫力・抵抗力が低下し、病原菌により感染するリスクが非常に高いといえます。また、●病院外からの免疫力の高い保菌者の来院、●医師や看護師、あるいは調理員などの医療従事者による病原体の運搬、●病院内で使用する消毒薬や抗生物質の使用により多く生息する薬剤耐性菌等、による感染症が引き起こされるリスクがあり、病院外で起こる市中感染とは病原体も対策も異なる点が多いのです。



今回のシンポジウムでは院内感染対策として、世界各国で高い評価を受けています「Dycem クリーンゾーンマット」をご紹介しました。

この「Dycem クリーンゾーンマット」は汚染侵入の原因の8割と言われる、靴底・車輪に付着する汚れを99%取り除くことを可能にします。さらに付着物が細菌である場合、その繁殖を防ぐために、特殊抗菌添加剤配合と銀イオン効果が作用し、MRSA、やE-Coliだけではなく、大腸菌や黄色ブドウ球菌、O-157など様々な細菌の繁殖を抑制します。

空気中の目に見えないパーティクル・細菌等は床に付着し繁殖する傾向が高く、このマットを取り付けることで人間の通過による空気中への再飛散を抑制することが可能になります。

今回のシンポジウムでは、多くの方々に関心を寄せていただきました。薬品や食品工場、そして精密工場だけではなく、ぜひ医療関係施設で効果的にご利用頂きたくご提案申し上げます。